

式辞

3月も中旬を過ぎ、ここ十勝もようやく春の香りがしてまいりました。雪解けも始まりました。長かった冬もようやく終わりを告げ、これから彩り豊かな十勝の大地が顔を出してくるのでしょうか。

地域教養学科38名、生活科学科栄養士課程25名、社会福祉科子ども福祉専攻73名、同介護福祉専攻21名、合計157名の卒業生の皆さん、ご卒業、誠におめでとうございます。

さて、コロナ禍も終わりを迎えないまま、本日ここに第61回卒業証書・学位記授与式を迎えることとなりました。思えば、2年前私たちは経験したことの無いパンデミックと向き合うこととなりました。以来、世の中は大きく変貌しました。今までの常識は全て非常識となりました。こんなに大きなパラダイム変換、つまりは世の中の枠組みが変わった経験は稀だったと思います。しかしその都度、人類は改めて常識をくみなおし、現状と合致させながら、苦境を乗り越えてきたと言って良いのだと思います。今また、ウイルスの反撃に遭い、我々も厳しい戦いを強いられているのですが、それでも人間はその都度に対応しつつ、乗り越えていくのだと固く信じるところであります。

また、ロシアによるウクライナ侵攻が本年2月、突如として起こりました。戦争の怖さ、悲惨さ、をネット時代であればこそ、なおさらリアルに体験できてしまう私たちの現在の環境があります。人間の愚かさを痛感しているところでもあります。かように世の中は我々の予測を超えてある時・ある瞬間にとんでもないことが起きる、そんなことを感じています。そんな時、私たちはどう対処していったらいいのでしょうか。

本学の建学の精神は「おおいなるいのち」に目覚めることです。この2年間の学生生活の中で一つ、核となる大きな価値を皆さんが得たとすれば、それは命の尊さ、かけがえのなさです。全ての思考の基準をそこにおいてください。例えば、コロナ禍、命をいかに守るのか、ここにベースを置いていくこと。戦争においては当たり前ですが、人の命をどう守るのか、全てはここにあるのでしょうか。口で言うのは容易いことですが、思考の基準におくことで、さまざまな場面に対応できるのだと考えます。

一方で、人間は弱い、そして自己本位な存在です。常にそこを自覚して、自分を客観的に見つめることで新しい自分との出会いがあると思います。皆さんはおそらくそんな場面にこの2年間で数多く出会ったことと思います。

人生においては自分自身を問い詰めていかねばならない場面が数多く出てきます。どうか、その時に本学で学んだ多くの価値観をベースに真っ直ぐに誠実に、そして愚直に生きていってください。要領よく生きるより、愚直に生きるの方が私は「美

しさ」を感じます。「美しく」生きてほしい、そう願っています。

最後になりますが、保護者の皆様への感謝を持ち続けてください。一番、皆さんのことを心配し、そしてだからこそ黙って見守ってくださった方々なはずです。

本日は誠にありがとうございました。どうか、これからの人生がたくさんの方に恵まれますよう、心からお祈りをしております。健康に留意して、この学舎からたくましく飛び出して行ってください。

2022（令和4）年3月18日

帯広大谷短期大学学長 田中 厚一